

第4回四谷地区における区立小学校通学区域検討協議会での主なご意見（要旨）

- 1 四谷四丁目町会長からの意見（保護者への負担、行事の兼ね合いのご心配）に対して
  - ①地域パトロールは全部の地域を回るのではなく、自分の家の周りだけである。また、通学区域が変更になった場合は、学校として須賀神社の祭事も踏まえた年間計画を立てていくことになる。
  - ②地域パトロールは買い物帰りの報告でも構わないが本当に危ない箇所はその場で学校に報告してほしい。人数も各学年一人、当番の時期が決まっており、事前に確認できる。子どもと一緒に登校する中で危ない箇所を伝えるだけなので負担はほぼない。
  - ③小学校では、地域の行事や中学校の行事日程などにも配慮しながら計画を立てており、須賀神社や花園神社、四谷中学校の様々な行事にしても重ならないように調整している。
  
- 2 検討協議会のまとめ（案）に対する意見について
  - ①一番近いところから、花園小学校に変えて、なるべく花園小学校の方に児童が行くようにするのが現実的と考える。
  - ②6のタイトルについて、（1）は「検討に当たって重視すべき視点について」、（3）は「通学区域見直しの対象地域について」、（4）は第2回検討協議会の文言に合わせて「緩和策」ではなく「経過措置」ではないか。
  - ③6の「（3）対象地域について」に記載の意見は、検討協議会委員が発言した意見と地域の方の意見を分けて書くべきではないか。
  - ④対象地域について、愛住町が案としてあるべき。愛住町の中で四谷小学校に通う方が通学距離が短くなるのは一部の例である。恩恵がある人の方が多いのに、一部の人のために愛住町が案から消えるのは、このルールに乗っ取っていないと感じる。
  - ⑤緩和策について、当分の間として期間を定めないと逆に計画が立たず、十年後にお子さんを産む方や、マンションを買う方にとっては不安にさせるので数字として具体的に書かないというのはどうなのか。
  - ⑥四谷小学校が溢れているのであれば変えないことはない。子どものことを優先に考えるならば、何かしら措置は取るべき。
  - ⑦緩和措置期間は当面ではなく具体的な数字が欲しい。
  - ⑧四谷小学校が人気で人数が減少しなかった場合のことを考えた方がいい。運用面での取り組みをちゃんと打ち出してこれから入る保護者に伝えていくべき。
  - ⑨四谷四丁目は現状、四谷小学校と四谷第六小学校に通学区域が跨っている。四谷四丁目の地域で、現在四谷第六小学校に行っている方が、何か困っていることなどが実際にあるのか。困っていないのであれば花園小学校に行っても困ることはないのではないか。
  - ⑩経過措置に賛成。
  - ⑪見直し対象地域は、愛住町も選択可能な地域になれば、花園小の方が近い子どもたちは来やすいのではないか。
  - ⑫四谷四丁目を含めて線を引き直すことに抵抗がある。

- ⑬地域協働学校では四谷四丁目までを含めてずっと学校を支えてきている。地域で学校を守っていく、運営して見守っていく、応援していこうということを大前提でずっとやってきた。そのため線を引き直されることへの影響を意見の中に示してほしい。
- ⑭児童数の増加は今スローダウンしているため、現状の状況を見極めることが必要だと思っている。
- ⑮昔から四谷に住んでいる立場からすると、四谷に縁があって移住されて来た第一世代の親御さんやそのお子さんたちとの結びつきを強く求めている。第二世代のお子さんは保育園、幼稚園、小学校に通っていく中で、徐々に我々地域の人間との関係がだんだん深まってきていると感じる。
- ⑯第二世代の子どもたちが大人になって地元でそのまま育って、暮らしてほしいし、その時に町会の立場として同じ仲間としてお祭りや、ほかのイベントに力を合わせてできるような結びつきを求めている。その中で地域と学校の関係はとても重要だと感じている。そういう意味で長い先の第二世代の子どもたちのことを考えて、通学区域を考えている。
- ⑰四谷四丁目は地域の避難場所は四谷ひろばであるが、もし通学区域が変わった場合、花園小学校として子どもたちの指導をどうしていくのかイメージができない。お祭りの日程調整だけではなくて、防災拠点など総合的に考えながら検討いただきたい。
- ⑱地域として決めつけず子どもたちのためを考えて、自分たちの歴史もあるが何がいいかを改めて地域でも考えてみる機会でもある。
- ⑲意見を伺う人数が増えれば、それだけ選択肢も増える。何を優先順位のトップにするかを考えれば、やはりこれから小学校に通う子どもたちの教育環境を第一とするしかない。
- ⑳緩和策の当分の間は、ある程度はっきりさせないと280戸マンションに入ってくる人たちはそれにすごく翻弄されてしまうのではないかと。当分の間をある程度見えるようにする必要がある。
- ㉑検討を進めるにあたりウィンウィンの方向性を示さないと進まない。一つ目のウィンは花園小学校の教育環境が改善したこと。もう一つは、子どもたち・保護者・地域の方にとってもウィンでなければいけない。そのためには子どもたちの学びを第一優先に考えていく必要がある。
- ㉒現状、四谷小学校は教育環境の整備が学校経営の一番にきてしまっている。本来は教育内容、子どもたちの育成が一番にくるべきである。
- ㉓これから子どもに提供しなくてはいけないことは個別最適化された学びである。個々の子どもたちに合わせた教育をできるだけ提供していくことが求められている。そのことを考えると、通学区域の見直しはやったほうが良いと感じている。
- ㉔緩和策の際、四谷四丁目と愛住町の言い方のニュアンスを変えることで先々に効いてくる可能性もあるかと思う。例えば思うように花園小学校に児童が移らなかった時、逆に花園小学校が増えすぎ時など。
- ㉕経過措置の検討は、今後進んでいくと思うが、ここの細かいディテールで受け取り方が変わる。保護者から意見を言える機会があるならば、今後ご意見をさせてもらいたい。
- ㉖通学区域を変えとしても、断腸の思いが必要。
- ㉗子どもたちの状況を一番に考えてあげるべき。そのため安易に通学区域の範囲をどんどん広げていくべきではない。

### 3 花園小学校について

- ①花園小学校の魅力を発信するキャンペーン活動が必要（チラシ作成など）
- ②フェンスや学童クラブなどの素早い対応については保護者も好反応である。通学区域が花園小学校になったらこれまで慎重であった方も、この対応を見て、子どもや親のことをすごく考えてくれていると感じるのではないか。
- ③道を歩いてタバコを吸っている人など小学校とは直接的に関係のない方が花園小学校の魅力を落としているのが残念。
- ④花園小学校の魅力を高めるため、キャンペーンや、インスタグラム等の活用など周知媒体を工夫することも必要。広報紙やホームページで周知しても、忙しい保護者にとっては自ら積極的に情報を収集することは難しい。
- ⑤花園小学校のPTA活動は今まで部が多かったが、今年度すべて見直しをして、最小人数で、働いている方も多いため、負担が少ないようにしている。手伝える時に手伝える環境に整えていく。
- ⑥四谷四丁目や愛住町に限らず、行くことでメリットがある児童や家庭は多くあると思うため、花園小学校の魅力をしっかり伝えてほしい。
- ⑦通学区域が変わった場合は、花園小学校に行く人のことを考え、保護者や地域の人がポジティブに捉えることが一番子どもたちに大切なことである。

### 4 四谷小学校について

- ①現状、四谷ひろばの一部を四谷小学校の校地として活用するための陳情の審議をお願いしている最中である。
- ②令和7年度2学期に、増設校舎ができ現状の教室不足やトイレの問題は改善する見込みである。

### 5 その他

- ①通学区域とお祭りは別で考えてもらいたい。
- ②お祭りの問題は軽視するわけではないが、今の若い人たちはそこまで気にしておらず、その町全体で様々なお祭りがあることをポジティブに捉えている方もいるため、年間行事が重ならないようにさえ配慮すれば問題ないのではないか。
- ③花園地区の町会は常に元気なので、町会とそこにある学校との繋がりだけでなく、四谷四丁目とのつながりをもっと広げていってもいいと感じる。
- ④当時、信濃町は外苑東通りを挟んで四谷に一中と二中があった。中学入学時に外苑東通りで真二つに分かれたが、大人になって、まだそこに住んでいれば、結局は町会や祭事などはまた一緒にやるようになる。
- ⑤どこの小学校に通うかは親が決める。親を啓蒙しないといけない。花園のお祭りは子どもが350人以上来ており、四谷四丁目、愛住町の方も来ている。ただ子どもは来るが親は来ない。だから親を啓蒙する方が良い。
- ⑥四谷四丁目が花園小学校になった後も、教育委員会も責任を持って四谷四丁目四谷小学校を応援していた人たちが、今度は花園小学校を応援する気持ちになるようなサポートをしてほしい。
- ⑦通学区域の見直しについては、広く認可外の未就学児施設にも周知するべき。希望して認可外の未就学児施設に通っている人ばかりではないので、そういった方へのケアも必要。